

(別 添)

1. 構造名

れんが・ポリスチレンフォーム・構造用合板表張/せっこうボード重裏張/木製軸組造外壁

2. 形状及び寸法等

(寸法単位: mm)

項 目	申 請 構 造
壁 高	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする
壁 厚	238 以上

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位: mm)

項 目	申 請 構 造
①荷重支持部材(柱)	木 ・断面形状 105×105 の断面寸法以上 ・間 隔 構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする
②外装材	れんが ・厚 さ 70.5 以上 ・働 き 幅 76.5 以上 ・働 き長さ 230.5 以上 ・組成(質量%) 二酸化けい素 72.5 \pm 7.5 酸化アルミニウム 18.5 \pm 3.5 第二酸化鉄 6.5 \pm 3.5 酸化マグネシウム 1 \pm 1 酸化チタニウム 1.5 \pm 0.5
③間柱	木 ・断面形状 105×30 の断面寸法以上 ・間 隔 500 以下
④構造用面材	[1] 外張用面材 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)あり(施工仕様Ⅰの場合)(別添-5, 6 参照) 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 構造用合板 ・規 格 JAS ・厚 さ 4.5 以上 2) MDF ・規 格 JAS ・厚 さ 7.0 以上 (2)なし(施工仕様Ⅱ、Ⅲの場合)(別添-7~10 参照) [2] 内張用面材 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 構造用合板 ・規 格 JAS ・厚 さ 9.0 以上 (2) MDF ・規 格 JIS A 5905 ・厚 さ 9.0 以上

(別添-1)

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
⑤断熱材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)あり(施工仕様Ⅰ、Ⅲの場合) イ)～ロ)のうち、いずれか一仕様とする イ)ポリスチレンフォーム ・規格 JIS A 9511 ・厚さ 15以上 ・密度 26kg/m ³ 以上 ロ)ポリエチレンフォーム ・規格 JIS A 9511 ・厚さ 15以上 ・密度 26kg/m ³ 以上 ハ)ロックウール ・規格 JIS A 9504 ・厚さ 15以上 ・密度 10kg/m ³ 以上 ニ)グラスウール ・規格 JIS A 9504 ・厚さ 15以上 ・密度 10kg/m ³ 以上 (2)なし(施工仕様Ⅱの場合)
⑥胴縁	木 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)あり(施工仕様Ⅰ、Ⅲの場合) ・張方向 イ)、ロ)のうち、いずれか一仕様とする イ)縦張(別添-11参照) ロ)横張(別添-12参照) ・規格 JAS ・断面形状 45×12の断面寸法以上 ・間隔 500以下 (2)なし(施工仕様Ⅱの場合)
⑦内装材	[1]上張用せっこうボード(平成12年建設省告示第1400号) ・規格 JIS A 6901 ・厚さ 12.5以上 [2]下張用せっこうボード(平成12年建設省告示第1401号) ・規格 JIS A 6901 ・厚さ 9.5以上

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①留付材	<p>[1]ウォールタイ(れんが固定用)(別添-15参照) (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ステンレス鋼板特殊L型金物 ・厚 さ 0.8以上 ・長 さ 105以上 ・間 隔 縦430以下、横500以下 (2)ステンレス丸鋼ビス付特殊金物 ・ 径 3.8以上 ・長 さ 140以上 (ビス部径3.8以上、長さ40以上) ・間 隔 縦430以下、横500以下</p> <p>[2]ウォールタイ留付用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ステンレスくぎ ・寸 法 $\phi 3.8$以上$\times \ell 41$以上 ・間 隔 縦430以下、横500以下 (2)ステンレスビス ・寸 法 $\phi 3.8$以上$\times \ell 41$以上 ・間 隔 縦430以下、横500以下</p> <p>[3]防水紙留付用 工業用ステーブル ・材 質 鉄 ・寸 法 $w12$以上$\times \ell 10$以上 ・間 隔 100以下</p> <p>[4]構造用面材留付用 [4-1]外張用面材留付用(外張用面材ありの場合) 鉄丸くぎ ・規 格 JIS A 5508 ・寸 法 $\phi 2.75$以上$\times \ell 50$以上(N50以上) ・間 隔 縦200以下、横400以下 [4-2]内張用面材留付用 鉄丸くぎ ・規 格 JIS A 5508 ・寸 法 $\phi 3.05$以上$\times \ell 38.1$以上(SN40以上) ・間 隔 外周部150以下、中間部200以下</p> <p>[5]内装材留付用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)せっこうボード用くぎ ・規 格 JIS A 5508 ・寸 法 $\phi 2.34$以上$\times \ell 38.1$以上(GN40以上) ・間 隔 縦500以下、横200以下 (2)十字穴付き木ねじ ・規 格 JIS B 1112 WSN ・寸 法 $\phi 3.8$以上$\times \ell 32$以上 ・間 隔 縦500以下、横200以下</p>

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
②通し筋	[1]縦通し筋 ・材 質 丸鋼 ・寸 法 $\phi 6.0$ 以上 $\times l 700$ 以上 ・間 隔 500 以下 [2]横筋(別添-16 参照) (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)丸鋼 ・寸 法 $\phi 6.0$ 以上 $\times l 700$ 以上 ・間 隔 860 以下 (2)ステンレスメッシュ筋 ・寸 法 線径 0.75 以上、線間 9 以下 ・間 隔 860 以下
③モルタル	・規 格 JIS R 5210 (ポルトランドセメント) ・混合比 骨材：セメント $1_{\pm 0.1} : 3_{\pm 0.1}$
④防水紙	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)アスファルトフェルト 430 ・規 格 JIS A 6005 (2)透湿防水シート ・材 質 ポリエチレン ・厚 さ 0.5 以下
⑤シーリング材	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリウレタン系樹脂 (2)アクリル系樹脂 (3)変成シリコン系樹脂 (4)シリコン系樹脂 (5)ポリサルファイド系樹脂 ・使用量 140g/m 以下

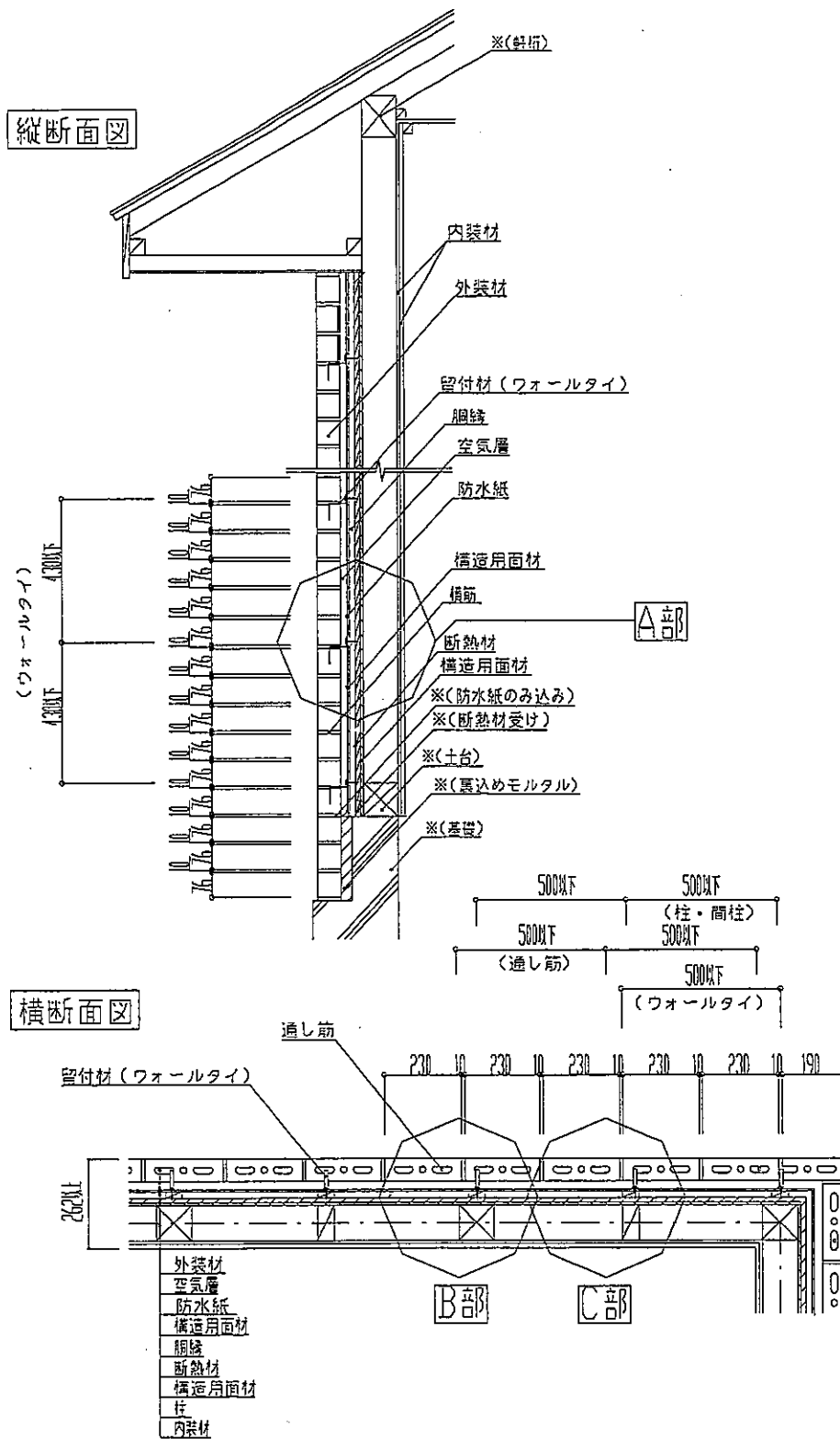
3) 施工仕様

項 目	申 請 構 造												
施工仕様	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1)施工仕様Ⅰ(別添-5, 6 参照) (2)施工仕様Ⅱ(別添-7, 8 参照) (3)施工仕様Ⅲ(別添-9, 10 参照) <table border="1" data-bbox="657 1644 1283 1814"><thead><tr><th></th><th>外張用面材</th><th>断熱材</th></tr></thead><tbody><tr><td>施工仕様Ⅰ</td><td>あり</td><td>あり</td></tr><tr><td>施工仕様Ⅱ</td><td>なし</td><td>なし</td></tr><tr><td>施工仕様Ⅲ</td><td>なし</td><td>あり</td></tr></tbody></table>		外張用面材	断熱材	施工仕様Ⅰ	あり	あり	施工仕様Ⅱ	なし	なし	施工仕様Ⅲ	なし	あり
	外張用面材	断熱材											
施工仕様Ⅰ	あり	あり											
施工仕様Ⅱ	なし	なし											
施工仕様Ⅲ	なし	あり											

4. 構造説明図

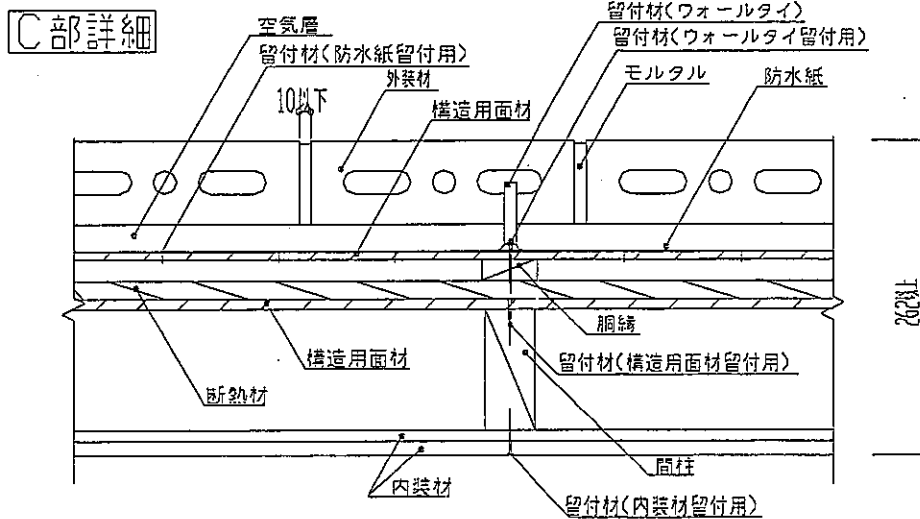
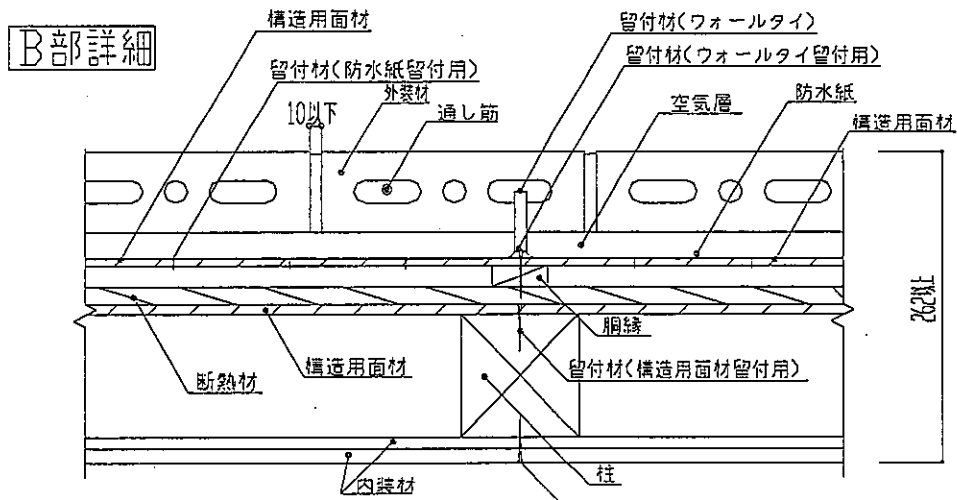
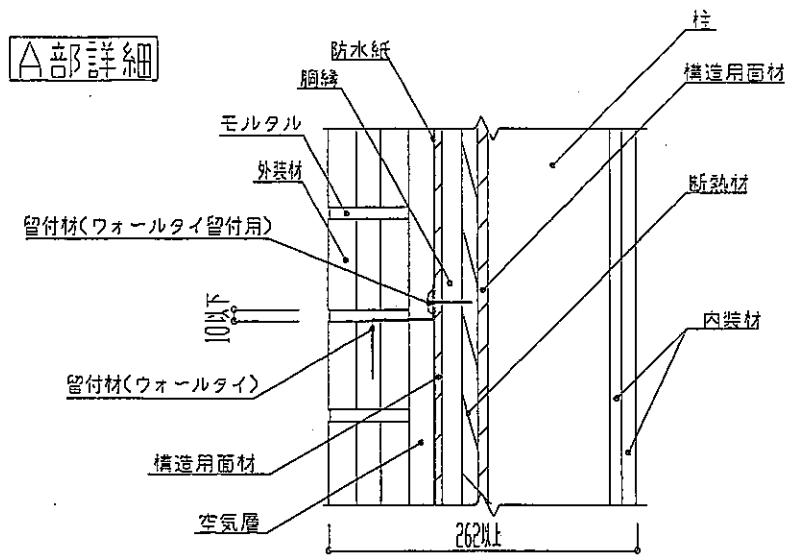
<断面図>施工仕様 I

(寸法単位：mm)

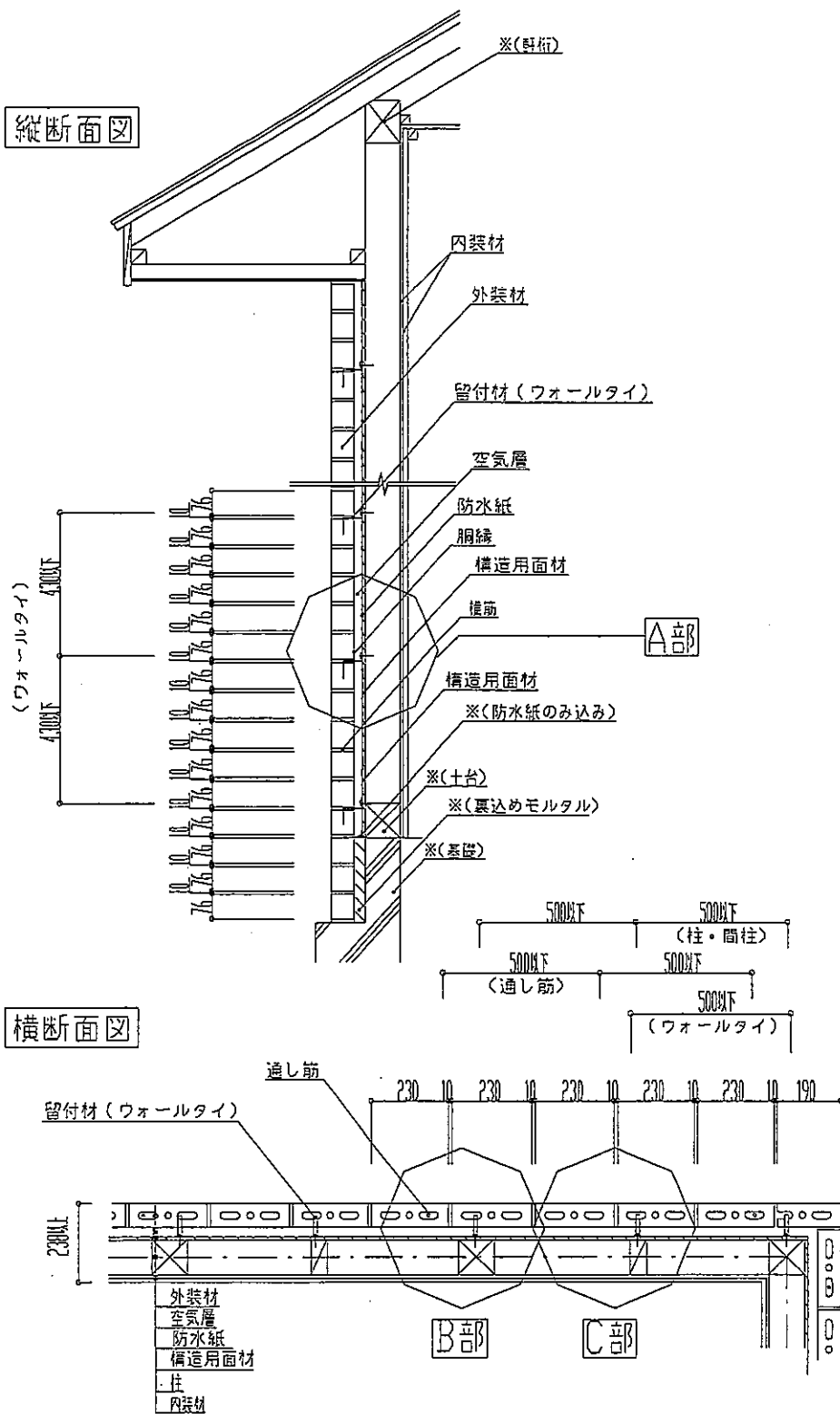


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない



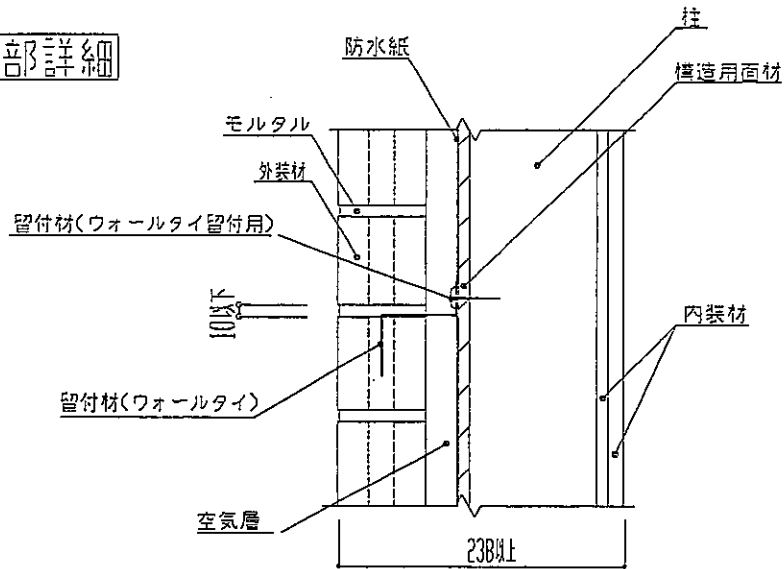
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり



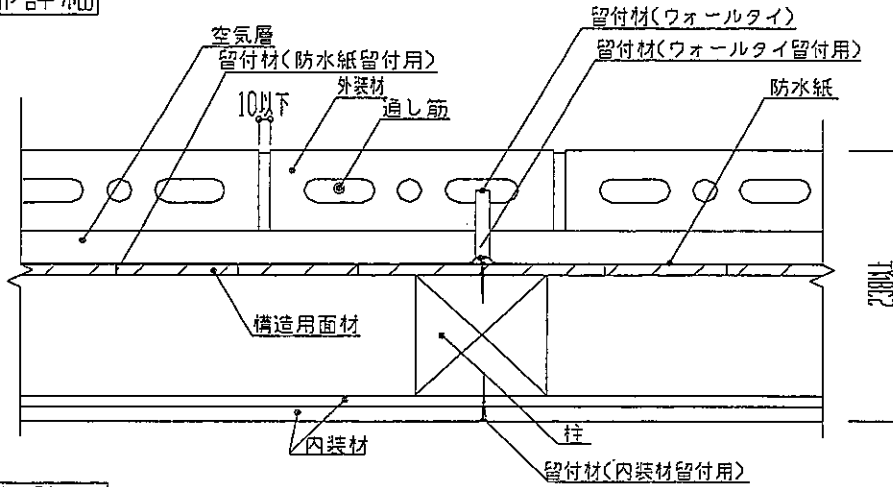
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

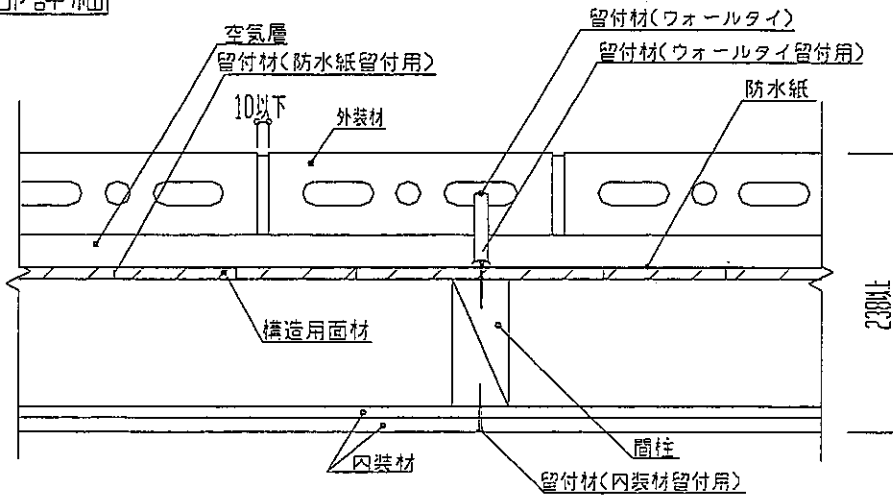
A部詳細



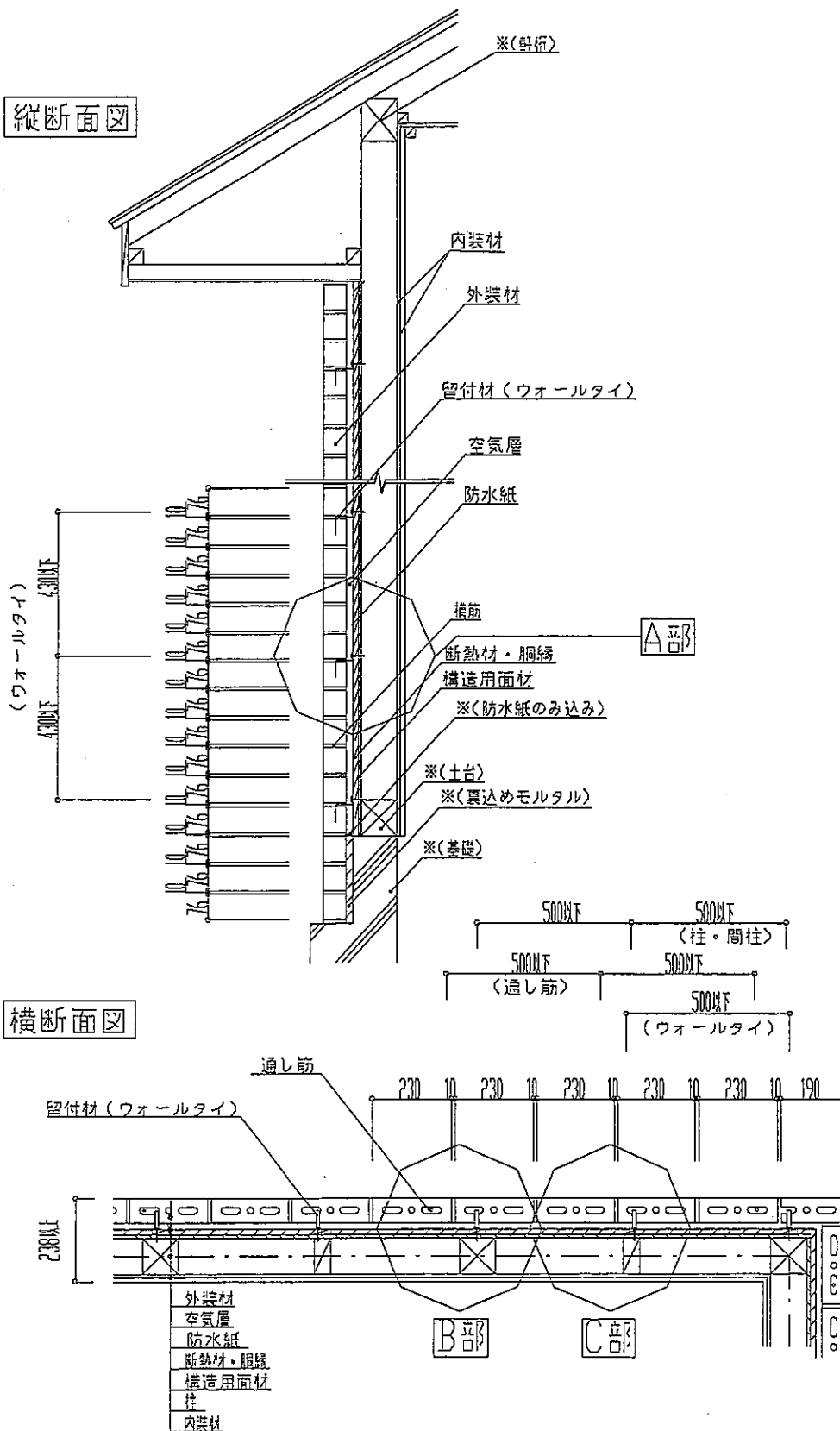
B部詳細



C部詳細



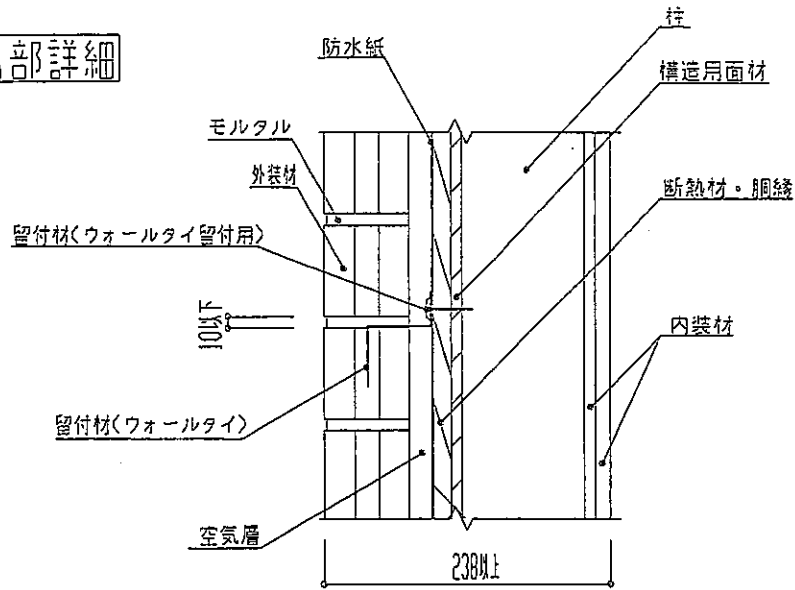
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり



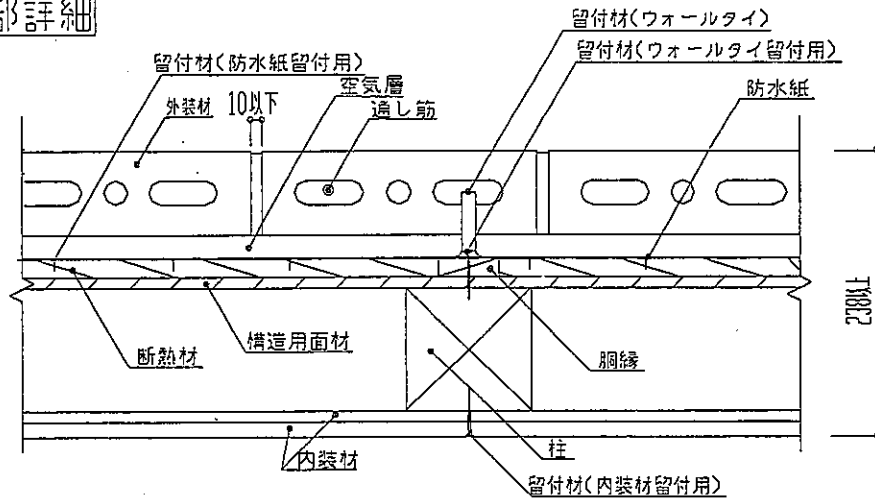
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

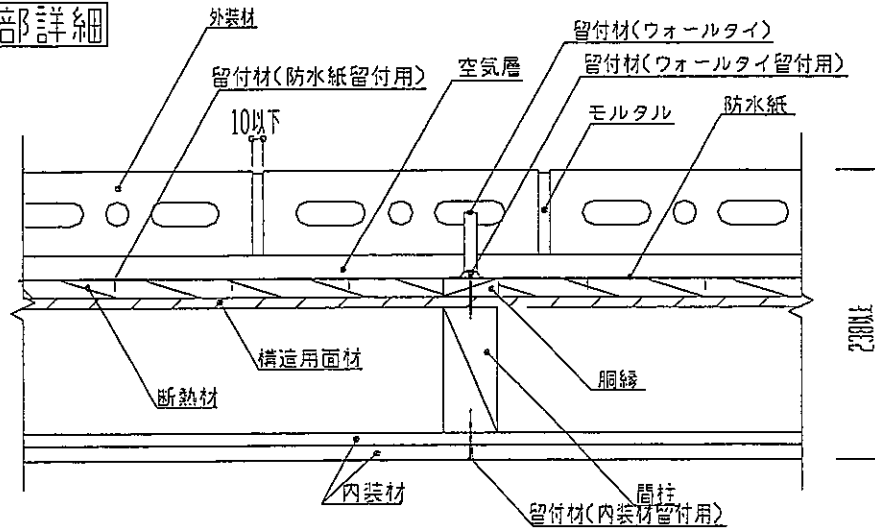
A部詳細



B部詳細



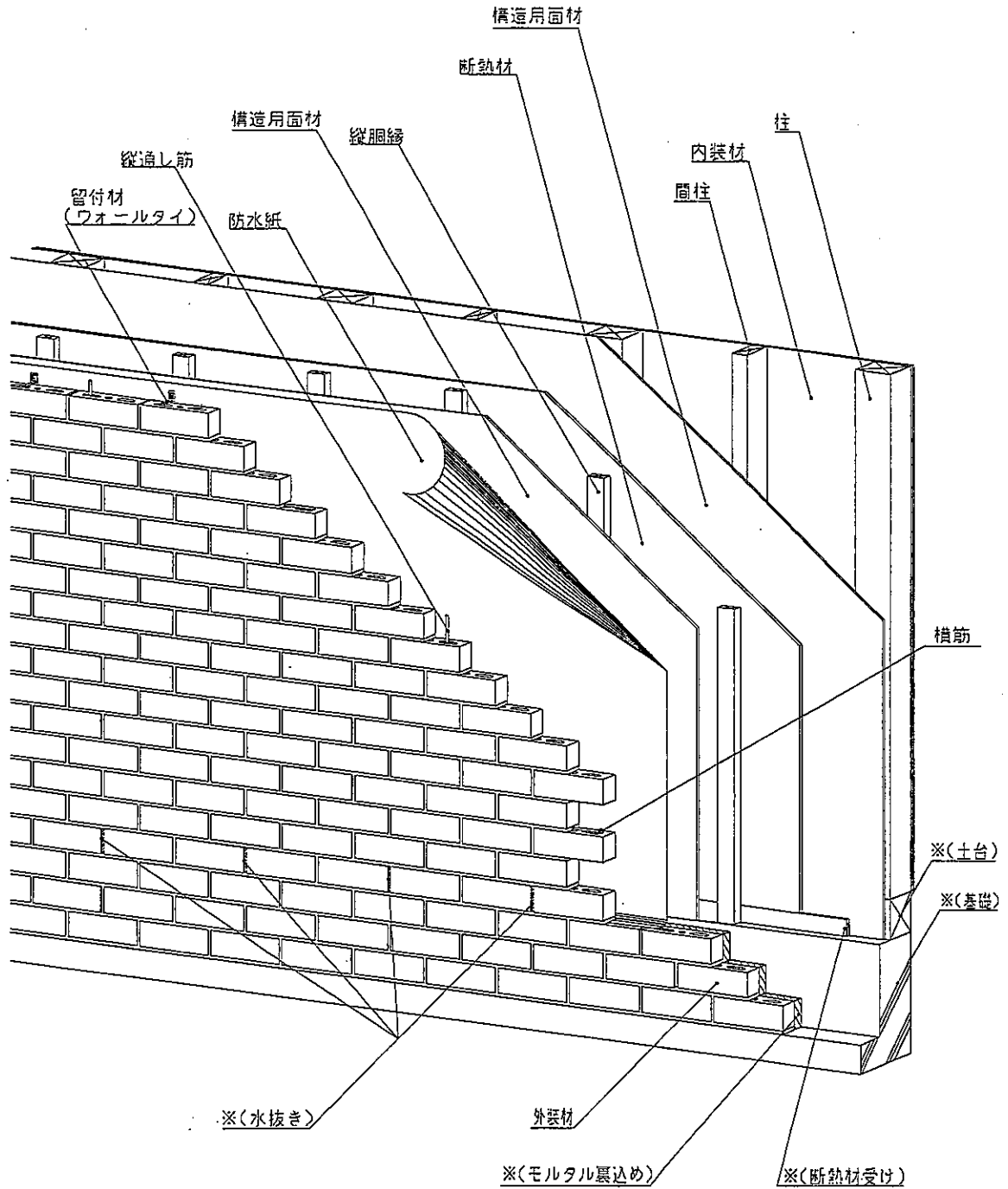
C部詳細



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

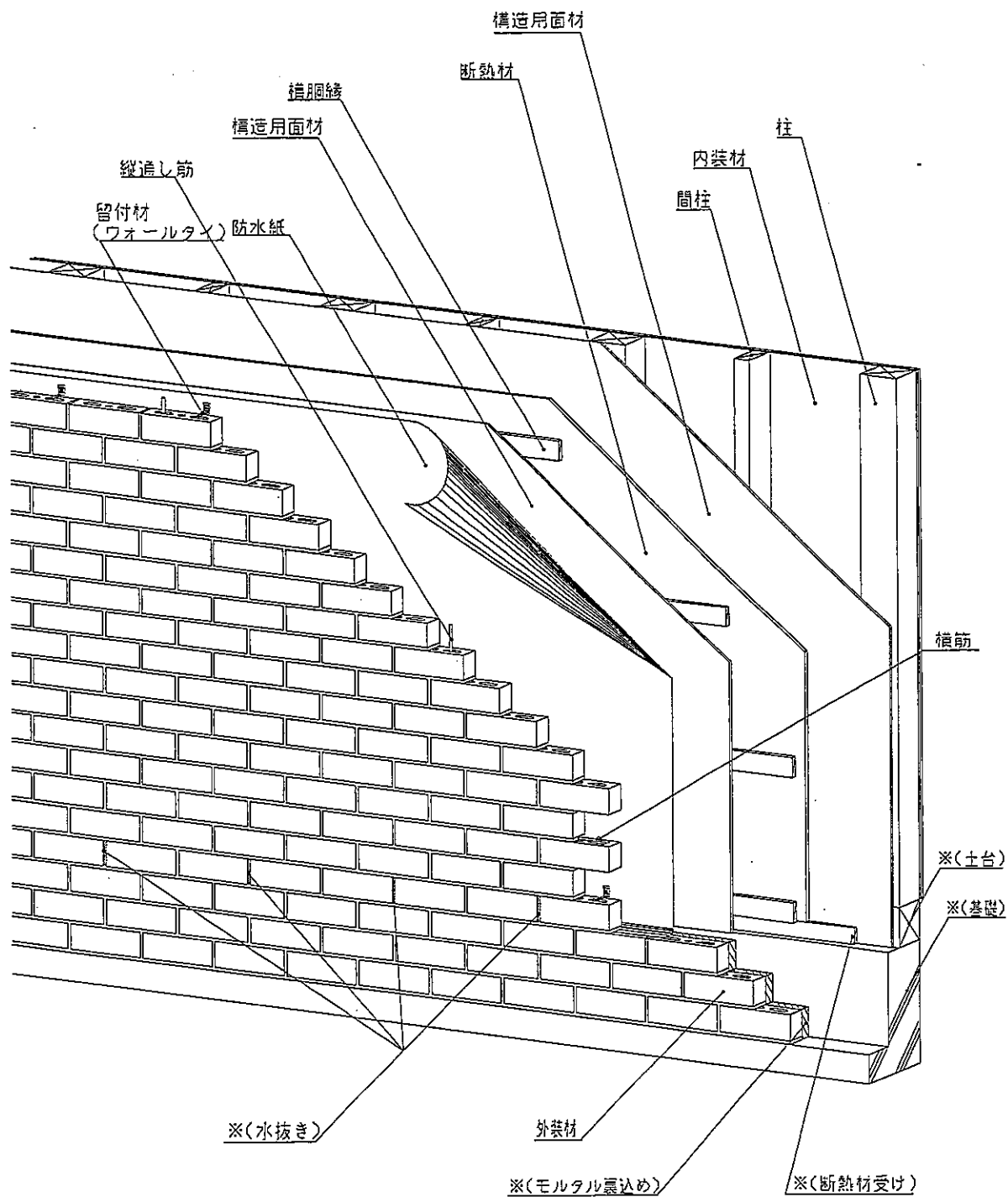
<施工図> 施工仕様 I



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

※: 本評価内容に含まない

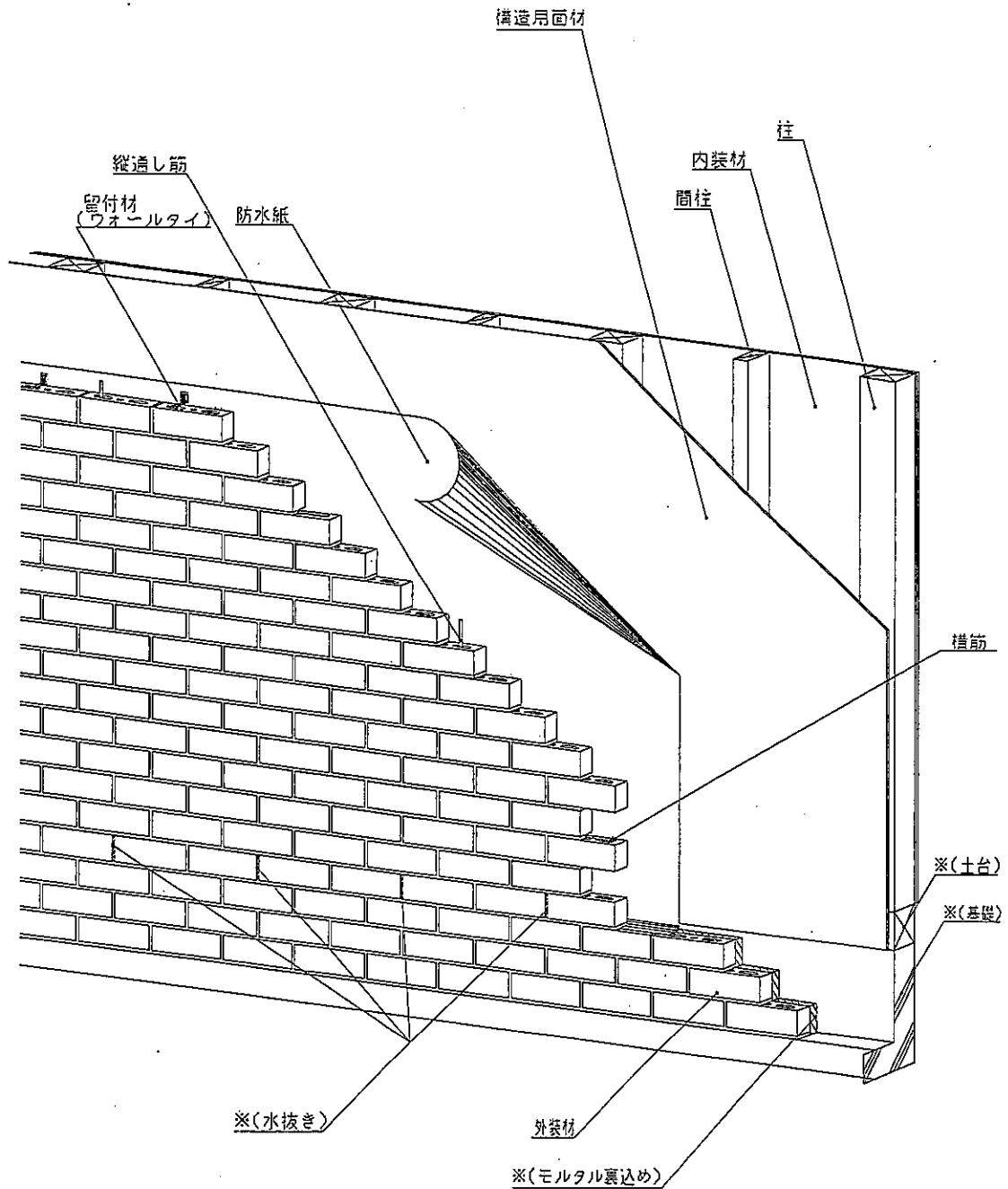
施工仕様Ⅰの胴縁が横方向の場合（施工仕様Ⅲも同様）



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

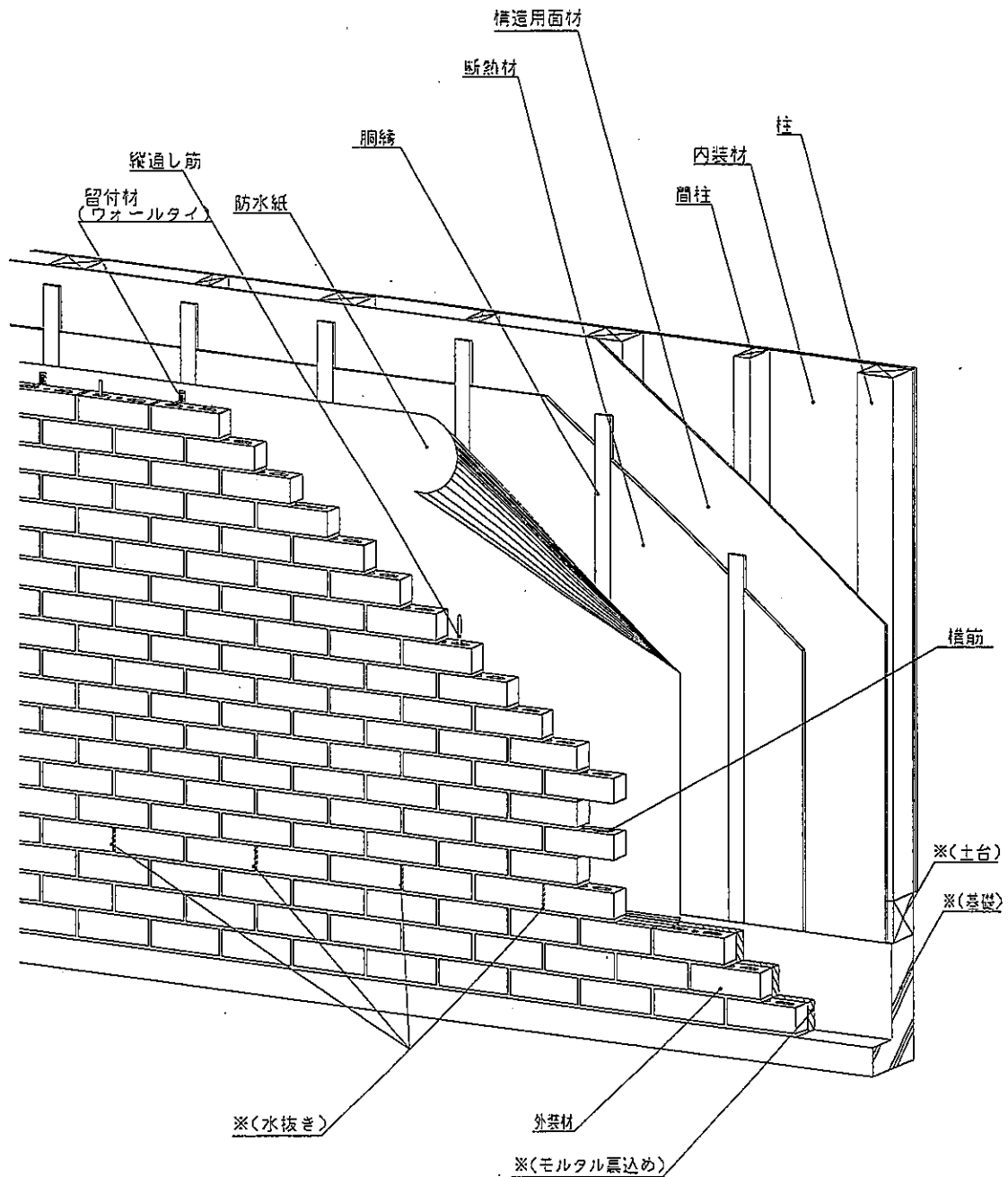
施工仕様Ⅱ



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

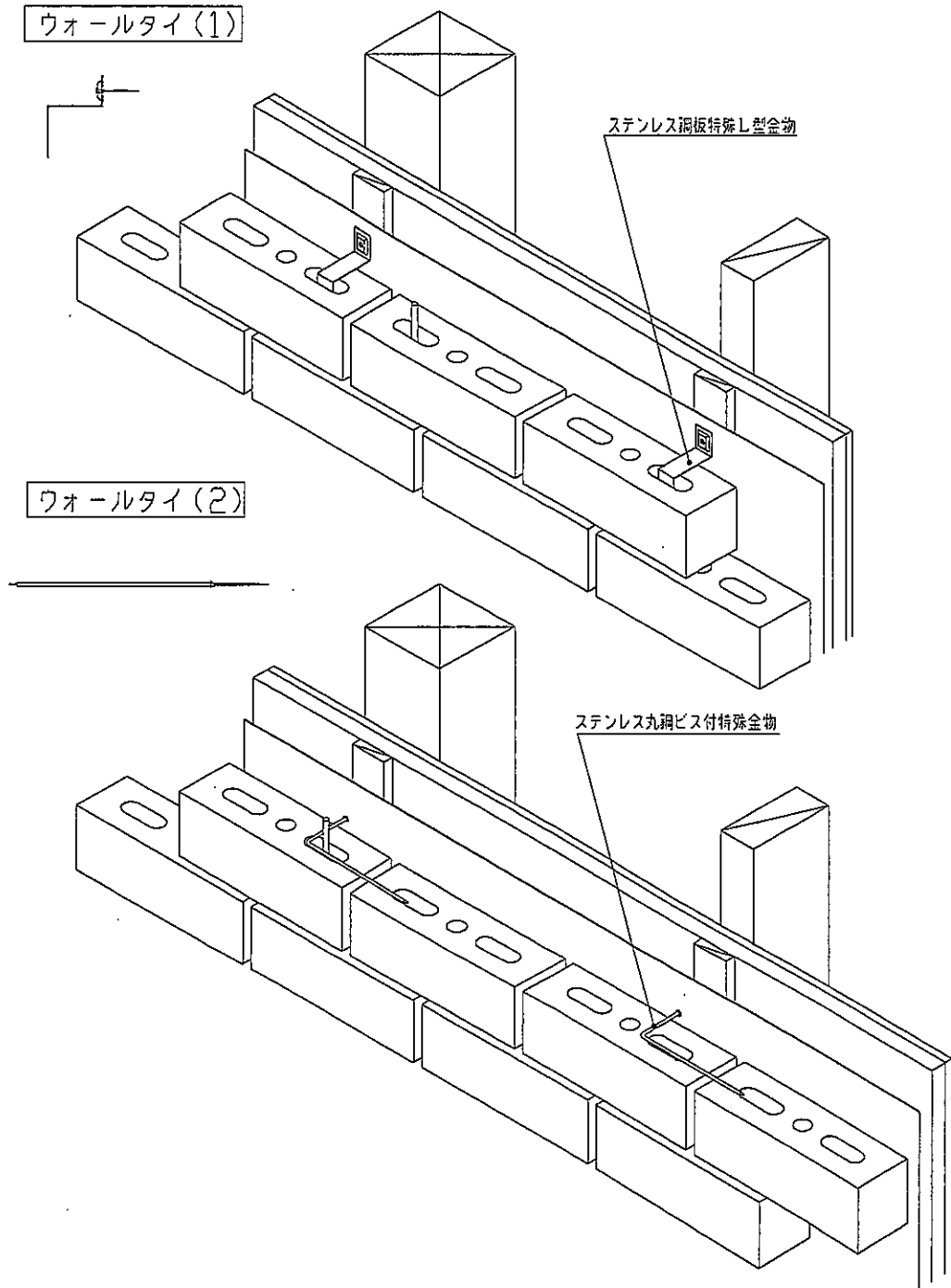
施工仕様Ⅲ



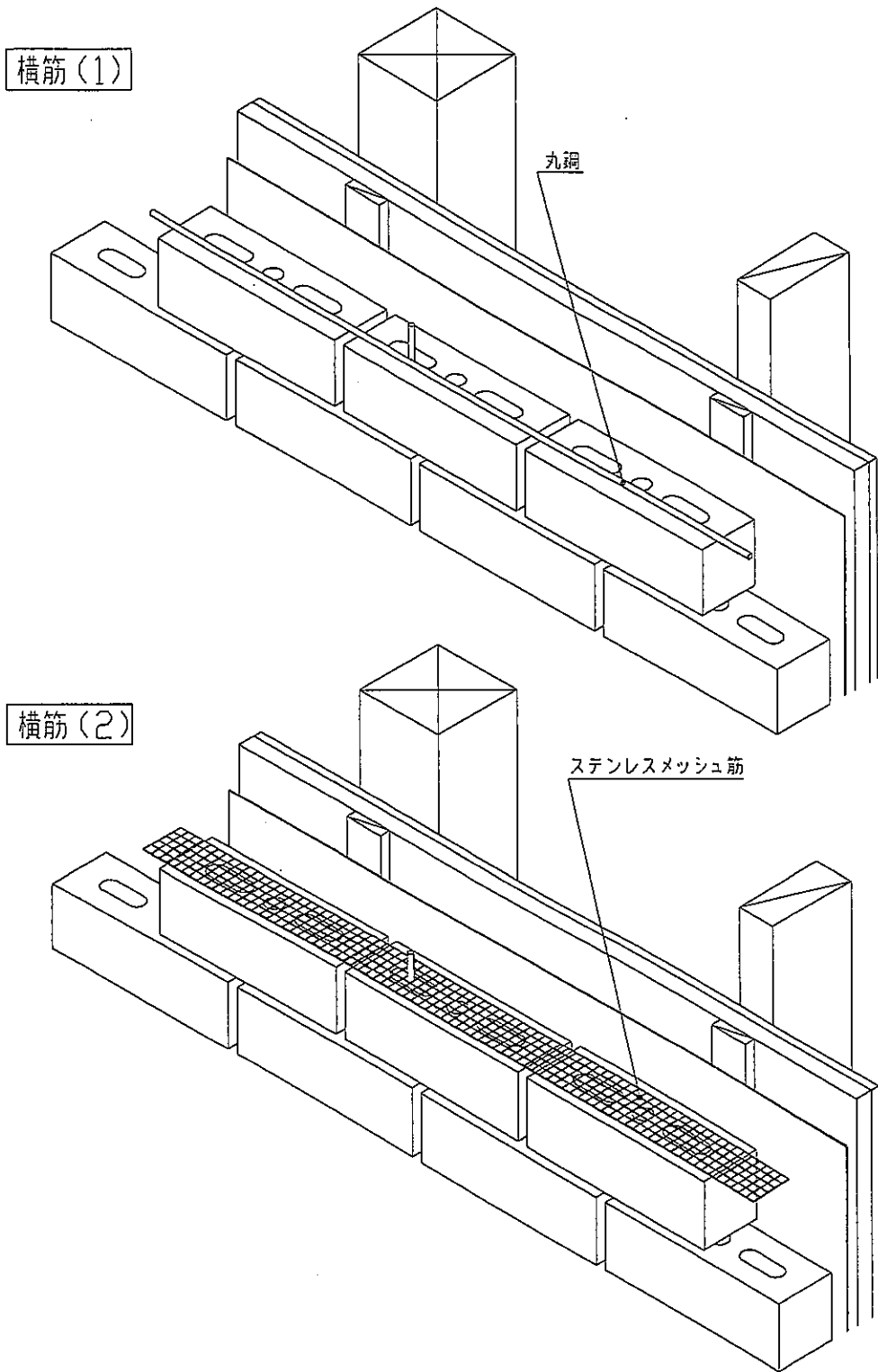
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

<留付材（ウォールタイ）詳細図>



<通し筋（横筋）詳細図>



<施工手順>

- 1) 柱、間柱に構造用面材を留付材にて所定の間隔で留付ける。
- 2) 構造用面材に胴縁、断熱材を留付材にて所定の間隔で留付ける。
- 3) 防水紙を留付材にて所定の間隔で留付ける。
- 4) モルタル練り
 - ・ 混練りは機械練りを原則とし、十分な練り方を行う。
 - ・ 加工後のモルタルはなるべく早く使用し、オープンタイムは1時間以内とする。
- 5) 組積（レンガ中空積み工法・長手積みパターン）
 - ・ ウォールタイ取付け用に適切な位置に墨出しを行う。
 - ・ れんがをモルタルが全体に密着するように基礎から積み上げる
 - ・ ウォールタイを縦 430 以下、横 500 以下の間隔で留付ける。
 - ・ ウォールタイはれんがとれんがの間に挟み込む
 - ・ 一日の積み高さは 1.2m 以下とする。
 - ・ 施工図に基づき適切な配筋をし、レンガの補強を行う。
配筋は縦通し筋を 500 以下、横筋を 860 以下に配し、れんが壁面の補強を行う。
 - ・ レンガ積み後、積みモルタルの硬化前にレンガ面より 2～3mm 程度にかき落とし
目地コテで押さえ、表面に出たモルタルはスポンジなどでふき取る。